



# 消防大学校だより

## ■ 新任教官科(第6期)

消防大学校では、平成25年3月5日から3月15日までの11日間にわたり、全国の消防学校の新任教官等92名を対象に新任教官科(第6期)を実施しました。

新任教官科は消防学校教育訓練担当職員に対し、必要な専門知識及び技術を習得させることを目的としており、講義技術に関すること(教育心理学、教育技法、講義演習等)、学校の運営管理に関すること(メンタルヘルス、体育理論、安全管理、事故事例等)、課題研究を柱として編成しています。

具体的な講義内容としては、効果的、効率的な教育訓練の方法、講義の組み立てのほか、講義実習では、全員の模擬講義を収録し、学生が自らの話し方を知るとともに、学生相互で評価、検討を行うなど、より良い講義を行なうための手法を学びました。

また、課題研究では、消防学校の教官として不安に感じている点や、既に学校教官として抱える問題、疑問等について、グループ討議を行い問題解決への糸口を探り

ました。

研修を終えた学生からは「教育心理学、教育技法などすべてが初めて学ぶもので、学校現場ですぐに活かせる知識が得られた。消防業務から教育業務へと業務内容が変わる中で、不安を解消できる研修であった。」「学生に対する話し方、接し方、講義の進め方など不安に思っていることを知ることができ、とても有意義であった。」また、「各学校の違いや、問題点を共有することにより、解決の糸口を見出すことができた。」などの意見が多数寄せられました。

消防を取り巻く社会環境は複雑多様化する一方、熟練職員の大量退職、市町村消防の広域化等、様々な課題を抱える中、こうした状況に的確に対応していくための人材育成は、従来にも増して重要なものとなっています。

新任教官科で習得した知識、技術にさらに磨きをかけ、全国の消防学校において優秀な消防職員の育成ため、大いなる活躍が期待されます。



メンタルヘルス講義



訓練礼式

## 緊急消防援助隊教育科 高度救助・特別高度救助コース(第2回)

消防大学校では、2月5日から2月19日までの15日間にわたり、高度な資機材（救助隊の編成、装備及び配置の基準を定める省令別表第3に定める救助資機材）を装備し、又は装備する予定である救助隊の隊長等を対象に高度救助・特別高度救助コース（第2回）を実施しました。本コースは、高度救助隊、特別高度救助隊の救助業務に必要な高度の知識及び能力を習得させることを目的としています。

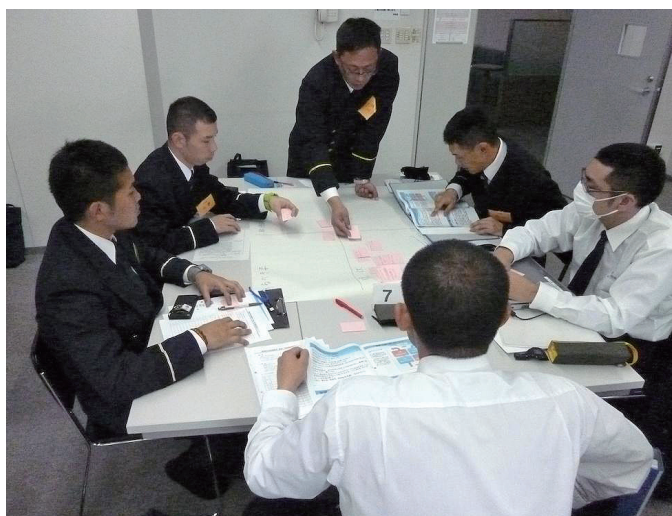
座学では、消防庁国民保護・防災部の広域応援室長による「消防広域応援」、同じく防災部参事官補佐による「救助行政」をはじめ、東日本大震災で緊急消防援助隊の支援を受けた仙台市消防局泉消防署八乙女分署長による「広域消防応援受援体制」、杏林大学病院高度救命センター長による「放射線災害対策」などを学びました。ま

た、実科訓練では高度救助資機材の取扱い及び人命検索訓練をはじめ、大規模災害対応訓練として大規模地震を想定した各種訓練を実施しました。

また、各消防本部における災害活動事例を持ち寄り、事例発表を行い、受講生全員で活動要領等について再検討したほか、「災害対応能力向上を目指した訓練方法」や「各所属の救助隊で抱えている課題」について検討を行い、活発な意見交換を行い、その成果を発表しました。

受講生からは、「発表された成果を参考に自らの所属で検証してみたい。」との意見が多く寄せられました。

消防大学校において習得した知識及び技術を各消防本部で活かし、大規模災害時には迅速かつ的確な対応がなされることが期待されます。



課題討議



大規模地震想定訓練

### 問い合わせ先

消防庁消防大学校教務部  
TEL: 0422-46-1712